

C 協働学習（C2）

主な学習活動

情報機器やインターネットを利用することで起こるトラブルに巻き込まれる危険性について学ぶ。

1 本時のねらい

情報機器やインターネットの利用者全員が、情報モラルを守りながら生活をしていくにはどうすればよいか考え、意思決定することができるようにする。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

Google Classroom

授業支援

Google Meet

3 参考にしてほしいポイント

Google Meetで全学年・全クラスをつなぐことで、多様な意見にふれ、一人一人の意思決定に生かすことができる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	情報モラルを守りながら、情報機器やインターネットを利用した生活をしていくための全校生徒の考えを知り、自分の考えと比較し、意見を再検討し、必要があれば修正を図る。	同学年、同学級の生徒だけでなく全校生徒の意見の共有が可能になり、ある画像をSNSに投稿した際のリスクの捉え方やリスクの視点の違いを確認できた。発表や話し合いを通して共有化されたキーワード等を参考にしながら、自分で一度結論付けた意見を再検討し、自分としての具体的な個人目標を意思決定することができた。

タブレット

+

プロジェクト



配信された映像で、他教室の意見をきく生徒たち



自分の意見をタブレットで発信する生徒たち

4 活用効果

資料を操作しながら発表することで、画像のどこに着目してリスクを感じ取ったのかを示しながら考えを伝えることができた。また、画像等の資料に加筆して提示することができ、考えを伝える際に役立つことができた。さらに、全校生徒をオンラインでつなぐことにより、考えの違う多くの人と意見を交換することが可能になり、多様な意見にふれることができ、一人一人の意思決定に生かすことができた。

5 アドバイザーからのコメント

全学級をつないで全校で議論をすることは、デジタル機器を使わないと、ほぼ不可能です。議論を進めるには根拠が必要です。場合によっては、インターネットにつなげて情報を追加することもできるので、議論が深まると思います。全校集会等もできますね。
(東京工業大学 赤堀侃司)

現実に起こりそうな問題を題材にすることで、リスクに着目しながら情報モラルに対する学びを深めることができる実践といえます。全校で同じ内容についてリアルタイムで検討することは、多様な考えにふれる機会を創出し、生徒自身の考えを深めるために役立つことが期待されます。
(福島大学 平中宏典)